

中間報告書（平成 22 年度）

提出者 織田暁子・落合恵美子

提出年月日 2011 年 4 月 27 日

【プロジェクト名】

和文 アジア福祉レジームの比較研究

英文 A Comparative Study of Asian Welfare Regimes

【メンバー構成】

研究代表者：落合恵美子

幹事：谷紀子 辻由希 織田暁子 平林義康

メンバー：埋橋孝文 柴田悠 城下賢一 安周永 郭芳 朴蕙彬 郝洪芳 木下衆 ライ
カイ・ジョンボル トイボネン・トゥーッカ ステファン・ハイム 阿部彩 姫岡とし子

【ねらいと目的】（600 字程度）

急速に制度的変革が進んでいるアジア諸社会における家族・ジェンダー政策、労働政策、移民政策、人口政策の発展過程を比較し、現代アジアに共通するトレンドと多様性を探る。また、これまでのアジア福祉レジーム論がアジアにおける福祉レジームの共通性を所与のものとして、還元主義的にその原因を説明する傾向があったのとは異なり、共通する社会的条件の存在、アジア地域内でのあるいは欧米からの政策移転（policy transfer）、共通する文化資源の利用などにより、アジア福祉レジームの共通性やいくつかのパターンが形成されていく過程に焦点を当てる。

・80年代以降の、世界的な福祉国家／レジームの再編という流れの中で、日本を含むアジア諸国においていかなる制度構築が行われてきた/いるかを、特に家族にかかわる政策に絞って比較検討する。

・「家族にかかわる政策」には、狭義の家族政策やジェンダー政策のみでなく、若者の失業対策や非正規雇用対策、介護・育児支援やワークライフバランス政策などを含めることも考えている。

・アジア各国の間で政策立案の際に相互参照をしている部分（日本の介護保険→台湾の介護保険）や、ヨーロッパの経験を参考にしている部分（オランダのパート均等待遇→今後の日本への適用）などがあるので、各国制度・政策の形成過程におけるそのような影響

（policy transfer）をみていくことで、「アジア的な福祉レジーム」が果たして形成されつつあるのか、あるいはいくつかの類型に分岐しつつあるのか、が分かれば面白いのではなかろうか。

【活動の記録】

2010年

- 6月1日 メンバー顔合わせ・プロジェクト研究方針の打ち合わせ
- 6月18日 辻由希：「日本型福祉レジームの再編期における社会的再生産をめぐる政治過程」
- 7月1日 織田暁子：イアン・ホリデイ+ポール・ワイルディング編、埋橋孝文ほか訳、2007『東アジアの福祉資本主義—教育、保健医療、住宅、社会保障の動き』法律文化社
- 8月6日 辻由希：金成垣（キムソンウォン）、2008『後発福祉国家論—比較のなかの韓国と東アジア』東京大学出版会
- 9月9日 セミナー
Jeremy Rappleye 先生（東京大学大学院教育学研究科 JSPS 特別研究員）：Researching Policy Attraction, Understanding Policy Transfer: What Insights from the field of Education?
- 11月9日 セミナー ※ 研究会に代えて、セミナーに参加
「Gender and Poverty: Britain and Japan」
フラン・ベネット先生、ケン・ジョーンズ先生、丸山里美先生
- 11月16日 ランチ・ミーティング
パット・セイン先生を囲んで
- 11月30日 城下賢一：パット・セイン編、木下康仁訳、2009『老人の歴史』東洋書林
- 12月3日 セミナー
パット・セイン先生 ”Unmarried Motherhood in 20th Century England”
- 12月21日 谷紀子「ケアダイヤモンド理論の比較」

2011年

- 1月16-17日 国際シンポジウム “Care regimes in Asia”
Session 1: Care, Work and Welfare States I
Teppo Kröger (University of Jyväskylä) “Childcare regimes in Europe: reconciliation and dedomestication”
Chou Yueh-Ching (National Yang-Ming University)
“Unpaid care and paid work among working age women in Taiwan”
Sun Hsiao-Li Shirley (Nanyang Technological University)
“State and Family in Childbearing Decision-making in Contemporary Singapore”
Discussant: Uzuhashi Takafumi (Doshisha University)

Session 2: Care, Work and Welfare States II

Worawet Suwanrada (Chulalongkorn University)

“Elderly Care in Thailand : Current Situation and Challenges”

Le Ngoc Lan and Nguyen Huu Minh (Vietnam Academy of Social Sciences)

“Elderly Care in Vietnam”

Susan A. McDaniel (University of Lethbridge)

“Welfare State Capitalism and the Production/Protection Nexus in Two Ageing Societies: Japan and Canada”

Discussant: Abe Aya (NIPSSR)

Session 3: Care Diamonds in Asia

Ochiai Emiko (Kyoto University)

“Care Diamonds in Asia: Varieties of Familialism”

Raymond K H Chan (Hong Kong City University), Soma Naoko (Yokohama National University)

“Care Regimes and Responses: East Asian Experiences Compared”

Discussants: Park Keong-Suk (Seoul National University), Yamane Mari (Aichi Kyoiku University), Miyasaka Yasuko (Nara University), Kobayashi Kazumi (Osaka Kyoiku University), Yamato Reiko (Kansai University)

Session 4: Migration and Care

Jung Keunsik (Seoul National University), Eun Young (Gyeongsang National University)

“Korean Care migration to West Germany 1960-70s”

Patcharawalai Wongboonsin (Chulalongkorn University)

“ASEAN Care Regimes: Towards More Transnational Mobility of Care Service Providers?”

On-anong Saiphoklang, Patcharawalai Wongboonsin(Chulalongkorn University)

“Migrant Workers in Thailand: Sufficient Care?”

Discussants: Chang Kyung-Sup (Seoul National University), Asato Wako (Kyoto University)

	柴田悠「ケアダイヤモンドに関する既存調査データの確認と調査設計提案」
3月25日	研究会 ・今後の研究計画打ち合わせ セミナー
	堀江孝司先生(首都大学東京 准教授)「少子化対策と男女共同参画政策—政治学の視点から—」
4月20日	平林義康「今研究会の基軸文献について」 落合恵美子・柴田悠「ケアに関する調査の調査項目について(EU の先行研究より)」

【成果の概要】 (800字程度)

平成22年度は、プロジェクトメンバーによる研究会、ゲストを招いてのセミナー、および国際シンポジウムを通して、アジアの福祉レジームや政策策定過程の研究動向を把握するとともに、その研究方法についての検討を重ねた。それにより、本プロジェクトの研究焦点はアジアのケアレジームに絞るとの方針が定まった。

本年検討した主な点は以下のとおり。

①福祉政策に関する政治過程：アジア諸国は、「後発的」に福祉が発展し、同時に再編の時期も迎えている。福祉国家の形成過程が欧米のそれとは異なる可能性がある。アジアの福祉制度を把握するためには、一時点における福祉国家の状況だけでなく、時間の流れによる変化の観点を入れることが有効であると考えられる。また、政策や福祉制度の形成過程について、それぞれのアクターのはたらきや、近隣諸国への政策波及効果 **policy transfer(policy borrowing)**の理論について学んだ。

②福祉レジーム論の課題：現在、アジア各国の福祉制度に関する蓄積は多いものの、アジアの福祉レジームの国際比較を行った研究は少ない。その理由の一つに、福祉レジームは固定的なものにとらえられるため、変化の中にあるアジアの福祉制度をみるのが難しいという点があげられる。それを克服するために、**Care Diamond (Welfare Diamond)**の概念を用い、「国家」「市場」「家族」「コミュニティ」の4つのケア供給主体について検討する必要がある。福祉国家の建設の遅れたアジアではとりわけ「市場」「コミュニティ」「家族」などの果たす役割が大きいことがわかっている。**Care Diamond**は、「レジーム」と比べて固定的ではなく、単一のものでもないため、階層による差異や時代による変化をとらえることができる。また、ひとつの社会における各ケア供給主体が占める割合や、複数の社会のケア供給の在り方の、双方を比較することができる。

③比較研究の手法：比較にあたっての大きな課題として、比較可能なデータが揃っていない

ないことがあげられる。とくに、Care Diamond における家族やコミュニティセクターのケア供給をはかる指標が貧しい。またケアの総量をはかる指標として、時間で測るのか、財政で測るのかという問題も提示された。こうした比較の方法については、今後ひきつづき、先行研究から学ぶとともに、海外研究者に協力を仰ぎ、既存データの検索を依頼する予定である。

【通信欄】

(事務局記入欄)

プロジェクト	<input type="checkbox"/> 次世代	<input type="checkbox"/> 次世代ユニット	<input type="checkbox"/> 男女共同参画に資する調査研究
経費	予算額	(千円)	実績額